

5-1 未来塾対応WG

1. 未来塾対応 WG の概要

(1) WG の活動目的

未来塾は、国交省と建コン協が自由な意見交換を行う場としてスタートしたが、近年は、各地方ブロック意見交換会における「要望と提案」の内容の調整や様々な制度設計に関する課題解決に向けた協議の場となっている。

さらに、国交省において建設生産・管理システムの上流段階となる業務（計画や調査・測量・設計段階）やマネジメントに関する議論の場となる「発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会業務・マネジメント部会」への対応を行っている。この部会の審議事項は以下に示す。

- a) 入札・契約方式について
- b) 品質の確保・向上について
- c) その他、業務（計画や調査・測量・設計段階）やマネジメントに関する課題

(2) WG の構成（委員）

WG長は常任委員長、副WG長は常任副委員長、委員8名の計10名で構成されている。

2. 主な活動の記録

(1) 未来塾対応 WG の開催実績

未来塾対応 WG は、定例常任委員会と同日に開催した（開催回数 10 回）。

(2) 未来塾会議の開催実績

7月2日及び12月20日に未来塾会議を開催した。その他、12月9日に事業促進PPPに関する協議を行った。

(3) 主な検討課題

令和6年度は、「納期の平準化」について集中的に議論するとともに、入札契約制度に関する問題提起を行った。

主なテーマは次に掲げるとおりである。

a) 納期の平準化

3月納期集中の緩和を最優先とすることとする。特に変更工期が3月に集中しないよう適正

な工期を確保するよう本省技術調査課から各地方整備局へ指導を強化しているが、まだ大きな改善は認められない（各地方整備局の意識は高まっている）。また、納期の二山化については、今後の検討課題とするが、6月、12月及び3月が納期の集中月となりそうな傾向がある。

b) 設計と施工のシームレス化に資する契約形態（ECI方式の改善提案）

現行のECI方式について、施工者からの技術協力に応じて柔軟に設計変更する仕組みを提案した。また、技術協力・施工タイプや設計交渉・施工タイプの考え方について議論を行った。

c) 知的財産権の取扱いについて

建設コンサルタント業界において生成AIによる過去の成果の活用が進む中で、契約約款上の「成果の複製」の取扱いについて問題提起した。

d) マネジメント技術者の不足への対応

発注関係事務を担う技術者の人材確保・育成の課題（マネジメント能力の評価方法、新たな資格制度の必要性）について問題提起した。

3. 次年度の活動について

引き続き納期の平準化について、平準化の取組の効果の分析及びさらなる平準化促進方策の議論を進めるとともに、新たなテーマとして次に掲げる事項を検討する。

(1) 業務評定点の地方整備局格差の是正

(2) 知的財産権の取扱い

(3) その他の問題

- ・ ECI 方式（設計業務）の価格等交渉/柔軟な設計変更
- ・ 建設コンサルタント業務のスライド条項の適用について

（未来塾対応WG WG長 天野 光歩）